

TAO

U
K
I
Y
O
M
U
G
E
N
D
A
G
A
K
K
U



道

SAN DIEGO SYMPHONY
WINTER POPS PRESENTS

TAO:
TAIKO DRUMMERS OF JAPAN

Tuesday, February 16, 2010
Copley Symphony Hall


SAN DIEGO
SYMPHONY
JAHJA LING
MUSIC DIRECTOR

WINTER POPS
TAO: TAIKO DRUMMERS OF JAPAN



FEATURED TAO PERFORMERS:

Yoshinori Suito, Arisa Nishi, Natsuko Kuroyanagi, Ryohei Taki, Hiroaki Kishino, Shingo Kawahara, Maki Morifuji, Takuya Era, Taro Harasaki, Junichi Haraguchi, Kazuya Sato, Asuka Iwatani, Atsuyoshi Honda



A WINTER POPS SPECIAL PRESENTATION – TAO: TAIKO DRUMMERS OF JAPAN

Tuesday, February 16, 2010 7:30 pm

Performance is at Symphony Hall.

Program

Mugenkyo
Gin-No-Gaka
Aokikaze
Maori
Souhi
Soul-Rhythm
Festa

Intermission

Red-Run
Horizon
Da
Taisai
Ichigo Ichien
Queen

The approximate running time for this program is two hours.

Exclusive North American Representation & Tour Production by
CAMI Ventures, LLC. 1790 Broadway NY, NY 10019

Mark S. Maluso, President
Mike Forte, Associate Manager

Program Subject to Change



SAN DIEGO
SYMPHONY
JAHJA LING
MUSIC DIRECTOR



Presented by:



WINTER POPS
MEDIA PARTNER



ABOUT THE ARTIST

TAO has been seen in 16 countries and 300 cities with 500 performances per year. And to date, TAO has been seen by over 3.5 million spectators worldwide. Adored in Japan and across the world, they present an unprecedented and timeless Taiko performance, bringing a brand new genre to the stage.

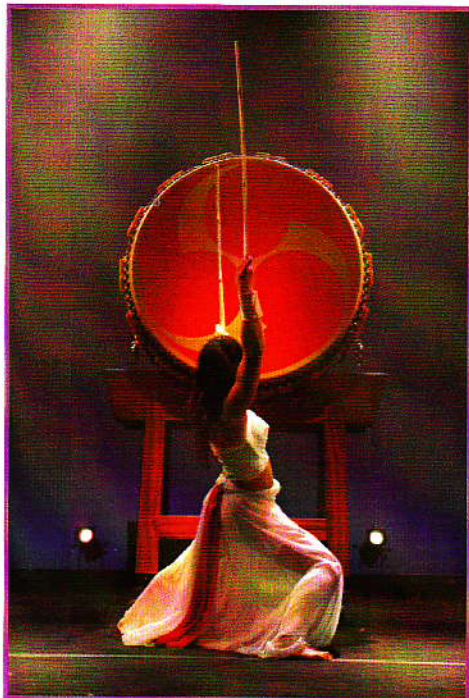
While the Japanese Taiko drum is a simple traditional instrument, it has the immense sound pressure and is an instrument that contains infinite possibilities. Enchanted by this instrument, TAO has worked to free the Taiko from its confines of being the "successor of Japan's traditional culture" and develop a totally new genre of entertainment.

TAO set up a living and training base at a 120,000 square foot site, surrounded by nature in a national park at Kyushu's Kuju Plateau which is considered one of Japan's most picturesque areas. At the site, they receive inspiration from the rich natural environment that surrounds them, grapple with the meaning of real music, undertake the strenuous training of athletes and continue to produce unique pieces of music that have continually overturned the Japanese image of traditional Taiko.

TAO receives enormous support in Japan, and has become renowned as "a Japanese Taiko Group with a difference".

Since 2004, TAO has taken the powerful performances they developed in Japan to the world renowned Edinburgh Arts Festival. From among the 1800 artists that gathered from all over the world, TAO achieved the record of No. 1 daily ticket sales and received a 5 star rating from the Edinburgh Festival press.

For more information please visit:
www.drum-tao.com



NATSUKO KUROYANAGI



黒柳 夏子
結成当初からのメンバーで、147cmと小柄ながら、演奏も性格もダイナミック。料理長として全メンバーの健康管理も担当。TAOの母的存在。学生時代は和太鼓部の部長を経験し、太鼓演舞の人生を歩む。女盛りの色気と卓越した演奏技術で男をも圧倒するB型寅年生まれ。

ARISA NISHI



西 亜里沙
舞台の主役的な存在として、作曲家として、経理部長として活躍。学生時代は吹奏楽に所属し、自ら立ち上げた地元の太鼓グループを全国優勝に導いた。今年で13年、その美貌も益々妖艶さを増し、筋肉も盛り盛りとなってきた。

YOSHINORI SUIJO



水藤 義徳
結成当初からのメンバーで、リーダーとして、舞台の中心的存在プレイヤーとして、作曲家として活躍。学生時代はロックバンドのギタリスト兼ボーカルを担当し、絵画を描く才能もある。一児の愛娘を持ち、妻を尊敬する比類なき優しいパパ。

MAKI MORIFUJI



森藤 麻記
年齢を感じさせない超アスリート体型が魅力的で、鳴り物の名手。TAOの衣装全般をデザインし、トレーニングマスターでもある。アマチュア時代は、全国女太鼓選手権で優勝の経験を持つ。「今年こそは結婚を」と張り切る筋肉熟女。

SHINGO KAWAHARA



河原 シンゴ
粋で凛とした姿勢が魅力的で、身体能力が高く、ドイツの公演では和太鼓プレイヤーとして初披露。学生時代は剣道、バレーボール、和太鼓部で活躍。自らの音楽・芸術感性を高めるため、絵料を超えた買い物をする絵を描いたような芸人魂を持つ。麻雀では授業料を払い続ける男の中の男。

HIPOAKI KISHINO



岸野 央明
しつこい程何事にも諦めない根性の持ち主で、超絶的な演奏技術を会得。作曲家としての才能も開花してきた。学生時代は父が立ち上げた地元の太鼓グループで活躍し、ほとんど勉強はしなかった。来年は入団9年目。将来の夢はTAOの社長。

RYOHEI TAKI



滝 良平
体を鍛えることが大好きで、常に「男とは?」と自分に問いかける。和太鼓プレイヤーとして、積み込み隊長として活躍。学生時代はスポーツに明け暮れ、ドラムも叩き、柔道も習った。来年は入団10年目。意中の女性とはゴールができるのか?

KAZUYA SATO



佐藤 和哉
RED11番目のプレイヤーとして産つぶちに立つ。学生時代はギターを弾き歌も歌ったが、彼女に逃げられる。文学部哲学科卒。「もう理屈はいらない!自分を根本的に変えていく!」と決心し、更なる身体と精神の厳しい鍛錬に挑んでいる。

JUNICHI HARAGUCHI



原口 純一
3年とREDでは一番経験が浅い童顔のじゅん君。卓越した演奏技術は元YELLO Wリーダーだけはある。幼少の頃からTAOを目指し、和太鼓を叩き続けていた。「俺は生涯プレイヤーだ!」と鼻息も荒く、トレーニングに励むぞうだ。

TARO HARASAKI



原崎 太郎
入団時はプレイヤー志望とは思えないほど、スタッフ向きの人だったが、英語も喋る頭脳派。海外留学とバーテンダーの経験を持ち、何かと便利。「俺は生涯プレイヤーだ!」と鼻息も荒く、トレーニングに励むぞうだ。

TAKUYA ERA



江良 拓哉
身体能力が高く、舞台表現が豊かで、イケメン顔。棒術の演技も更に高度になってきた。学生時代は棒高跳びで県大会優勝の経験もあるが、まったく勉強はしなかった。人気が出れば出るほど先輩にいじめられるが、大人の雰囲気を出すための新たな自分を模索中。

HIROYASU YANAKA



谷中 宏康
妻と子供たちに「1年後、必ず迎えに来るから」との約束で3年前に入団。頭の地デジアンテナが目印。元自衛隊・軍曹出身だけあって根性は濃い。億しさも体から滲み出ている。今年こそプロデューサーの信頼を得て、YELLOWのリーダーとなり、家族を迎えにいこう。

ASUKA IWATANI



岩谷 あすか
世界一の女性太鼓奏者を目指し、ひたすら鍛錬を続け、恐ろしいほどの肉体を作っている。幼少よりTAOを目指し、太鼓だけの人生を歩むが、きちんと箸が持てない。来年で入団4年目、REDと共に全米・全豪ツアーに参加し、REDレギュラーを目指す。

KIYOKO AIITO



相戸 喜代子
YELLOWのリーダーとして、舞台表現豊かな中心的なプレイヤーとして活躍。音楽の先生を母に持ち、学生時代は吹奏楽に所属。無差別に無頓着に何でも話して叱られる特技を持つ。来年で7年目。北島三郎50周年の舞台を支え、作曲にも挑戦する。

YUJIRO OHYA



大矢 雄仁郎
今年入団の新人を中心に勇気付ける高い精神力の持ち主。北島三郎公演も2ヵ月間経験。年上だが、神谷の良きライバルとして、来年早々にレギュラーを目指す。TAO設立以来の志願であった、初の地元大分レギュラー誕生なるか？

SHUNICHIRO KAMIYA



神谷 俊一郎
今年入団の新人で一番の頭角を現した。すでに北島三郎公演も2ヵ月間経験。父と同じ「矢沢永吉」の大ファンで空手の有段者。30歳に見えるが実は18歳。来年は早々にレギュラーに昇格し、YELLOWの中心的なプレイヤーになるはずだ。

KAZUYUKI MANDOKORO



政所 和幸
体を鍛えることが大好きなYELLOW太鼓打ち。元和太鼓【優】に所属していて、合計のプロ歴はなんと8年。何よりも自分が大好きなロマンチストな男から、闘争心刺き出しでYELLOWの中心のプレイヤーを目指す。

ATSUYOSHI HONDA



本田 篤芳
今年の「夏休み赤兎ライブ&ワークショップ」で急激に中心のプレイヤーとして頭角を現した。今、最もREDに近いYELLOW男性として、ちよっと天狗さまだが、佐藤和鼓を脅かす。来年は、REDと共に全米・全豪ツアーに参加し、REDレギュラーを目指す。

YASUAKI YAMAGUCHI



山口 泰明
なんと今年10月に入団したばかりの超新人。元体操選手、サーファー、お洒落なギター弾き、TAO下関公演実行委員会、身長180cm、笑顔が素敵なイケメン、ニュージーランド生活1年経験、6歳からの太鼓打ち。そして性格ボジティブ。もう言うことなし！プロデューサーのお気に入り出世が速そう。

KOUHEI YAMAMOTO



山本 康平
大人しい性格で物静かであるが根性がある。ちよっと女性っぽいと評判。男3兄弟の長男のためか、根が優しく包容力がある。他の新人同僚に遅れをとるが、大矢に負けず「俺が最初の大分レギュラーになる。」と闘争心を燃やしている。

YASUHIRO KAWAHARA



河原 貴裕
RED河原シンの弟で、仕事から喋り方まで、何から何まで全て同じ。ただ、お金がなくて使えない。兄同様、学生時代は剣道・和太鼓部に所属し、身体能力は高い。夏前に足を骨折し、他の新人同僚に遅れをとるが、只今猛追中。